

本日、1年間に及ぶ「コミュニティソーシャルワーカー スキルアッププログラム」の修了式を無事迎えることができ、溢れるばかりの感謝の思いと同時に、この1年間のものすごく大きな意義ある濃い時間を過ごした達成感と、たくさんの出逢いと、もう終わってしまうのかという寂しさが入り交じって、何ともひとことでは表現し難い気持ちを味わっています。

1年前、私はフェイスブックのあるページから、たまたま「コミュニティソーシャルワーカー スキルアッププログラム 受講生募集」の案内を目にしました。震災後の支援活動をきっかけとして2012年春に東京から福島に移住し、職業訓練校のキャリアコンサルタントとして3年間務めたあと、もっと福島の現状を知りたい、という思いで復興公営住宅のコミュニティ交流支援員へ転職しました。それから約半年、復興公営住宅を取り巻く様々な現実と課題に直面して大変悩んでいた時にこのカリキュラムを知り、申し込みを即決しました。

どうしても受講したい一心でこの学院に問い合わせをした際、事務局の先生方にとっても丁寧に対応して頂き、改めて福島から仙台に1年間通う勇気と決心を頂いたことが、ついこの間の事のような気がします。

実際に授業が始まってみると、仕事の現場で判らないなりに感じていた「こういうことが必要なのではないか」「もっとこういった取り組みができればいいのに」という疑問や葛藤の答えや豊富な事例をたくさん学び、毎回の授業で頭も心もいっぱいになるほどの気づきや発見を持ち帰りました。

高速バスでの帰り道、いつも授業の内容を振り返りながら、今日学んだことを現場に、職場に持ち帰らねば、という熱い思いでいっぱいでした。

しかしいざ持ち帰ってみると、学びの場で感じた熱い思いや気づきを共有し伝えることや実践することの難しさ、また理想と現実とのギャップに苦しさを感じ、福島からたったひとり学んで持ち帰ることの孤独や限界もたくさん味わいました。

授業の度に心を熱くし、持ち帰っては現場で葛藤し、の繰り返しでしたが、諦めず、心萎えずに前に進めたのは、他では学ぶことのできない充実した濃いカリキュラムに対する期待と、「絶対これを福島に持ち帰って伝えたい、何とか福島の支援の現場を良くしたい」、という思いが心を奮い立たせてくれたからだと感じます。それが、この1年間を乗り越える最大のモチベーションと成長の糧になりました。

コミュニティソーシャルワーカー スキルアッププログラムは、地域福祉における大切な「価値観」を養う場でもあったと感じます。

この働きの意義と目的を明確に持つこと、自分自身も含めた人々の暮らしと人生が営まれる社会や地域を「より良くしたい」という真摯な思い、そして「より良くする」ために何が必要で何を成すべきなのか、という知識と技能があってこそ、コミュニティソーシャルワーカーとしての取り組みが成されるのだと思います。

またその取り組みを行うためには、「ひとごと」ではなく「わたくしごと」として地域や人々の暮らしを考える視点が欠かせません。また「私がやりたいこと」だけではなく「ほんとうに必要なこ

と」を行うスキルが必要です。

それが単なる役割や仕事や組織における人的機能であったり、物事に対する対処の方法、ということだけであれば、ここまでの思いや時間と労力を割く必要はなかったかもしれません。

しかし、人が思いを持って人と共に歩みながらこの働きを行うとき、その働きにいのちが宿り、地域社会の可能性を引き出し、人々の暮らしを変える力になるという大きな希望と価値観を、私はこの1年間で学びました。

このカリキュラムを実施するに当たって、諸先生方のどれほどの経験と努力と熱い思いと貴重な時間の蓄積があったことだろうと考えると、何という貴重な宝を頂いた1年間だったかと思わされます。

熱意を持って、心を尽くして講義を行って下さった先生方、そして見えるところだけではなく見えないところでも、途方もない準備を重ねてきて下さった事務局の先生方に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

最後になりますが、もうひとつ、私がこの学院での1年間で大きな支えになった事は、歴史的建造物である記念礼拝堂での朝の大学礼拝でした。

礼拝出席は履修生にとってカリキュラムには入っておりませんが、朝、早めに大学に着き、授業前の20分間、神様の前に鎮まって祈り、賛美をし、メッセージを聴いて心を整えてから1日の長い授業に臨めたことが、私にとってどれほど大きな恵みであったか、計り知ることができません。10分間のメッセージが私の心の灯となり、時として心が揺さぶられて涙が溢れ、また賛美が力となりました。

駅から通学の途上にある、学院中学・高校跡のモニュメントに記された「LIFE LIGHT LOVE」の文字、そしてホーイ記念館入り口正面に掲げられた「地の塩 世の光」という聖書のみことばに、私が今ここに導かれ、学ぶ機会を与えられたことの意味を何度も何度も再確認しました。

新訳聖書ヨハネの福音書 15章 16節 「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。」

ここに導かれ1年間を過ごし、大きな恵みを受け取った者の責任として、学んだこと、与えられた全てのものを余すところなく活かして地域社会に豊かな実を結ぶためにさらに邁進することを心から誓い、またお世話になった全ての皆様、応援して下さった皆様、出会った全ての皆様に心からの感謝を込めて、修了のご挨拶へと代えさせていただきます。

1年間、本当にありがとうございました。